

グループ紹介

茨木市環境教育ボランティア 自然観察部会



茨木市環境教育ボランティアは、平成13年（2001年）に設立されました。この中に自然観察部会があり、以前から地域で活動していた「バラとカシの会」や「自然保護研究会」ほか多くのグループのメンバーが登録しています。メンバーは、さまざまな経歴や経験を持っているので、自然観察会や講座開催の要望に応じることができます。

例えば、植物・動物・昆虫・微生物・水生生物などの観察やこれらに関する講義、野草料理・化学実験・自然工作などの実技指導をお受けすることができます。詳しくは茨木市環境保全課発行の「環境学習メニュー」をご覧ください。そこに掲載していない内容でもご相談に応じます。ただメンバーは忙しい人が多いので日程の調整の時間的な余裕をいただきたいと思います。少人数の場合は柔軟に対応できますが、大きなイベントや学校（学年）単位の指導などは年間を通して計画したいので、早めにご相談ください。

これまでに、保育所の「春の小さな花摘み」、幼稚園での「冬芽の観察会」、小学校では「安威川の自然」「秋とドングリ」などの自然観察会を行いました。また、一般の方々を対象にした「自然工作指導」「自然との触れあい観察」「野草料理」「校庭の植物調べ」「ヒメボタルの生活」なども行ってきました。

毎年開催されている茨木市環境フェア（6月第1土曜日、日曜日）では、公開講座や自然観察会などを行っています。

多くの皆さんといっしょに、自然の不思議、自然のすばらしさを体験したいと願っています。

連絡先

永田 健二 635-4996

村林 旭 632-0102

または、茨木市環境保全課環境教育ボランティア担当窓口
620-1646

ハーメルンクラリネットアンサンブル



「子連れで気楽にアンサンブルをしよう」と思い立ち、平成10年（1998年）に発足しました。学生時代からクラリネットを吹き続け、結婚して子どもが生まれても、ずっとクラリネットを吹いていたという仲間が集まり活動しています。

メンバーは現在15人ほどです。それぞれが仕事に育児・家事にと忙しいので、気楽に参加しようというコンセプトでやっています。

今までに参加した活動は、年数回参加している茨木市のローズWAMでの「たそがれコンサート」、大阪市の曾根崎警察署地下で行われている「NESSO“WITH”コンサート」、保育所の修了式や誕生会、老人ホームの誕生会、コミュニティセンターでの「コミセンまつり」などです。演奏曲目は、クラシック、ジャズ、歌謡曲、演歌、アニメ、童謡と幅広く、楽器も小さいE♭クラリネットから大きいコントラバスクラリネットまであるので、柔軟なコンサートができます。また、楽譜も取り揃えています。

練習は、水尾のマンションの集会場で、毎週土曜日の朝10時から昼1時まで子どもたちに囲まれながら楽しくやっています。

私たちは、普段、接する機会のない生の音楽を楽しんでいただくために演奏活動を行っています。地元の子ども会をはじめ、いろいろな場で皆さんと交流を深めたいと、演奏の依頼を受けています。

また、いっしょに演奏したい方も募集しています。「気軽に楽しく」がモットーですので、こちらもお気軽にお問い合わせください。

連絡先

佐伯 真実 638-2562（FAXも）

E-MAIL harmerun@hcn.zaq.ne.jp

ホームページ

http://www.geocities.jp/harmeln_clarinet/

市民インタビュー このにあいたくて



第27回

茨木市民の中からいきいき生活の達人を探し出し、紹介するコーナーです。話から見えてくるその豊かな人生に、あなたもきっと勇気づけられることでしょう。

「大岩太鼓」保存会会長
みね よしあき
峯 義昭さん

享禄元年（1528年）から今日までの478年間続く伝統太鼓「大岩太鼓」を保存し継承している。明治に途絶えた太鼓巡行を、昭和60年に1世紀ぶりに復活させた。その活動は、茨木市内だけでなく海外にも及ぶ。また、学校、施設などにも出向き、各世代との交流を図っている。

「大岩太鼓」の歴史を教えてください。

享禄元年（1528年）に大太鼓3基を購入してから平成18年（2006年）の今日まで、478年の歴史があります。享禄元年とわかったのは、太鼓を張り替えた時、胴の部分から「享禄元年」の文字が確認されたからです。約30年後に太鼓巡行が始まりましたが、明治16年（1883年）に、時代の変化などによる担ぎ手不足で途絶えてしまいました。

私の家には太鼓の歴史に関する和紙の綴りがあったのですが、いつしか紛失してしまいました。幸い、祖父がその歴史やたたき方などを覚えていて、父と私が引き継ぎました。由緒ある太鼓や語り継がれた歴史などから太鼓巡行の復活を強く思い、地域の有志に働きかけて、昭和60年（1985年）に活動を再開しました。

太鼓巡行の原動力は何ですか。

何としても守りたいという使命感でしょうか。先祖が、長年引き継いできたこの地域の古い歴史を消してはならないという思いは、子どもの頃からのものでした。また、太鼓巡行の復活は父の願いでもありました。

「大岩太鼓」を保存・伝承することの苦労や喜びを教えてください。

昭和62年（1987年）に「大岩太鼓」の保存会が結成されるのですが、いきなりやろうと言っても人は集まりません。人々の絆と地域の協力が必要です。父からも「人の心を財産に」と教えられました。まずは地域の交流を図ろうと40人ほどでソフトボールを始めました。4・5年が経ち親睦も深まり、さらなる地域の活動を盛り上げようと「太鼓を復活させよう」ということになりました。その間多少の苦労はありましたが、太鼓を通しての地域の活性化や世代間交流ができ、うれしく思います。メンバーも小学生から60歳代までいます。復活して今年で22年。当時のビデオを見ると感慨無量です。

活動で何か気を付けていることがありますか。

大人には暴饮暴食はしないように、子どもには太鼓に対して一生懸命取り組むようにとっています。子ども

にとって一つのことをやり遂げるという達成感は、勉強や友達関係にも生かれます。

海外公演での反応はどうでしたか。

どの公演でもアンコールの連呼でした。地響きするような音に感動するようです。またリズムも西洋のものとは違い、東洋的なリズムが珍しいのかもしれません。

峯さんにとって「生涯学習」とは、また今後の抱負は何ですか。

太鼓を通して、世代を超えて交流することが、私にとっての「生涯学習」でしょうか。

また、これは抱負ではないのですが、少子化が進む中、4世代が太鼓という絆でつながっている保存会を引き継いでくれる人、つまり後継者をどうやって育てていくかが大きな問題です。太鼓の維持・管理も考えなければなりません。この先20年はやっていけるように、今から少しずつ準備をしています。

「大岩太鼓」はどこで見られますか。

7月30日に茨木フェスティバルのパレードに、8月6日には忍頂寺小学校100周年記念で夜に巡行する予定です。

また、大岩地区の秋祭が10月8日に行われます。午前（9:30～12:00）と午後（17:30～20:00）に地域を巡行しますので、多くの皆さんに見てもらいたいですね。

